

第 1 回 仙台市総合計画審議会市民の暮らし部会議事録

日 時	平成22年 7 月16日（金） 14：00～16：00
会 場	仙台市役所 2 階 第 4 委員会室
出席委員	足立千佳子委員、阿部一彦委員、内田幸雄委員、大村虔一委員、菊地昭一委員、小松洋吉委員、佐竹久美子委員、西澤啓文委員、庭野賀津子委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、水野紀子委員、柳生聡子委員 [13名]
欠席委員	鈴木由美委員、永井幸夫委員 [2名]
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹
議 事	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 部会長選出及び部会長代行指名3 部会長及び部会長代行あいさつ4 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 部会の運営に関する事項について(2) 基本計画の素案について(3) その他5 閉会
配付資料	<ol style="list-style-type: none">1 市民の暮らし部会委員名簿2 市民の暮らし部会の運営について（案）3 基本構想・基本計画の全体構造とコンテンツ4 基本計画（骨子案）5 人口フレーム（素案）6 持続可能な都市空間づくり（素案）7 分野別計画の体系（たたき台案）8 まち歩きフィールドcafe（参加募集ちらし）

1 開会

梅内総合計画課長

お疲れ様でございます。

定刻となりましたので、ただいまから「仙台市総合計画審議会 第 1 回市民の暮らし部会」を開催させていただきます。

今回が部会の第 1 回目でございますので、部会長が選出されますまでの間、進行役を務めさせていただきます。

最初に、資料の確認をお願いしたいと思います。たくさん資料がございまして申しわけございません。ご確認ください。資料 1 ～ 8、参考資料の 1、2 をつけてございます。資料の不足ございませんでしょうか。参考資料というのが最後にカラーの資料 8 が入っておりますが、その前に 2 枚、右肩に資料 3 ～ 7 の参考資料 1 と、資料 3 ～ 7 の参考

資料2に出てございます。それでは資料に不足ございましたら逐次お申しつけください。

定足数の報告をさせていただきます。現在12名ご出席、もう1名遅れてお見えになると伺っておりますので、定足数を満たしているということをご報告申し上げます。

部会の運営事項の決定事項でございます。資料2を御覧ください。部会の運営につきましても、基本的なルールは審議会と同様でございます。会議は原則として公開とすること。傍聴者の皆様に円滑な運営にご協力をお願いすること。議事録を作成し速やかにホームページ等で公開していくこと。議事録には部会長及び部会長が指名した委員1名が署名すること。以上でございます。

2 部会長選出及び部会長代行指名

梅内総合計画課長

それでは、部会長の選出と部会長代行の指名をお願いしたいと思います。

市民の暮らし部会は総合計画審議会条例の定めによりまして、部会長は委員の互選により、部会長代行は部会長の指名により定めることとなります。

どなたか部会長にふさわしいかご推薦のある方、挙手の上ご発言をお願いしたいと思います。

大村虔一委員

よろしいですか。

梅内総合計画課長

お願いします。

大村虔一委員

小松委員に是非部会長をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

梅内総合計画課長

小松委員のご推薦がございましたけれども、いかがでございましょうか。

(異議なしの声あり)

梅内総合計画課長

それでは部会長は小松委員をお願いしたいと思います。

小松委員どうぞ部会長席へお移りください。

次に部会長代理につきましては、部会長の指名によることとなっております。

小松部会長からどなたかご指名をお願いしたいと思います。

小松洋吉部会長

それでは水野委員に部会長代行をお願いしたいと存じます。いかがでしょうか。

(異議なしの声あり)

梅内総合計画課長

それでは水野委員に部会長代行をお願いしたいと思います。

それでは水野委員どうぞ部会長代行席にお移りください。

3 部会長及び部会長代行あいさつ

梅内総合計画課長

それでは始めに、小松部会長にごあいさつをお願いしたいと存じます。

小松洋吉部会長

改めまして、私、小松洋吉と申します。

仙台市社会福祉委員会の副会長をしておりますが、東北福祉大学に勤務しております。どうぞよろしくお願いいたします。

今この新しい社会システムが構築されなければいけない大変難しい時代にあるのではないかと考えております。将来ビジョンを作成ということの重要性を私なりに意識しておりますけれども、これも大変難しいことであると考えております。

委員の皆様、それから市民の皆様、マスコミの皆様、当局の皆様のご協力、ご支援を仰ぎながら務めさせていただきたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

梅内総合計画課長

よろしくお願いいたします。

続きまして水野部会長代行にごあいさつをお願いしたいと存じます。

水野紀子部会長代行

ただ今部会長代行にご指名いただきました東北大学の水野でございます。

専門は民法でございます。ですから家族の問題などを専門にしておりますが、今回の結論にどこまで寄与できるか分かりませんができるだけことをしたいと思います。

小松部会長とこの部会の審議を活発にかつ円滑に行えるよう努力をしたいと思います。どうぞ皆様よろしくお願いいたします。

4 議事

(1) 部会の運営に関する事項について

梅内総合計画課長

それでは、ただいまから議事に入りたいと存じます。

定めによりまして、部会長に議長をお願いすることになっておりますので、小松部会長の方をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

小松洋吉部会長

それでは議事に入りますが、部会の運営というのは先程のほかにも何かあるんですか。

梅内総合計画課長

先程のご説明のとおりでございます。

あらかじめ部会長の方に署名議事録委員の指名をお願いしたいと存じます。

小松洋吉部会長

それでは議事録の署名についてお願いしたいと思います。

あいうえお順ということで、足立委員に今回お願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

足立千佳子委員

はい。

(2) 基本計画の素案について

小松洋吉部会長

それでは次に、これは資料3からになりますか、基本計画の素案について協議を行ってまいりたいと思います。

事務局から説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

資料がたくさんございますので、簡単に概略をご説明してまいりたいと存じます。

資料3を御覧ください。A3の大きなものでございます。

基本構想と基本計画の全体構造ということで、これまで起草委員会を中心に基本構想をご議論いただきました。「仙台の未来へ（まえがき）」から今回の特色でございます「仙台の未来を創る市民力」、「仙台の都市像」、「仙台の確かな都市経営」という4項目からなっております。それを受けまして10か年の基本計画、施策体系を定めることとなります。今回部会の方では初めてこの基本計画のご議論いただくこととなりますのでよろしくお願い申し上げます。

基本計画でございますが、1番の趣旨について内側に簡単に書いてございますが、基本構想の都市像の実現に向けまして、今後10年間に取り組む施策の方向性を掲げたいと思います。

2番の計画フレーム、計画の枠組みでございます。計画期間は2011年度から2020年度までの10年間を想定してございます。人口フレーム、人口の推計でございます。資料5を御覧ください。仙台市は平成元年約89万人で政令市に移行いたしまして平成11年に100万人を突破したということで、その間毎年1万人近い人口増加を続けてまいりました。現在の仙台21プラン基本計画におきましては今年度112万人という想定、これはその当時の年間約1万人程度増えていたという状況を踏まえまして統計学的な推計を

行って出した数字でございますが、それを大きく下回り現在 103 万 6 千人という人口規模になってございます。そういった実態を踏まえまして、昨今の出生率の状況等を踏まえて出した人口推計でございます。2 ページのグラフと表を御覧ください。現在平成 22 年、2010 年におきまして夜間人口、住所をお持ちの方の人口ということで推計してございますけれども、夜間人口が 103 万 8 千人と推計してございます。下の表を見ていただくと右肩が下がっているということが明らかと思いますが、私どもの人口推計では 2 年後の 2012 年に 104 万人弱をキープといたしまして、計画期間の終了時には 103 万人ということで緩やかな人口減少期に入ってくる、この 10 年間はそういう時代ではないかと思っているところでございます。

あわせまして、少子高齢化が着実に進行してまいります。2010 年度のところ 3 区分でございますけれども、高齢者人口が 18.8 パーセントでございます。それが計画期満了時の 2020 年度には高齢者人口、65 歳以上人口が 25.4 パーセントということで、4 分の 1 を超える市民の皆様が、65 歳以上の人口に達するという形になってございます。昼間人口も夜間人口に併せまして若干減少に入っている。都市圏人口につきましても 150 万人前後で、緩やかな減少局面を迎えると思っております。

参考に、3 ページと 4 ページに超長期的な推計も載せてございます。これは今回の計画期間とは関係ございませんけれども、長期的なトレンドを踏まえるべきではないかという議論の基に、参考にお付けしているものでございます。これに従いますと 2050 年度には、私どもの生産年齢人口 15 歳から 64 歳の人口が 51 パーセント、65 歳以上人口が 40 パーセント、年少人口が 9 パーセントという推計になってございますので、あくまで統計上の推計でございますが、これによりますと生産年齢人口 1 人に、高齢者人口と年少人口を合わせた割合が 1 対 1 で対応するような状況になるものと推計してございます。

資料 3 にお戻りください。こういった人口の推計を踏まえまして、私どもとしましては、今回の基本計画は初めて人口減少局面に入る計画であると思っております。こういった観点から課題に対応していくためにどのようなものが必要かと考え、ここに理念と視点の案というものをたたき台としてお示しいたしております。理念のうち、人口減少ないしは横ばいということなんですけれども、高齢者の人口が増え、経済も低成長ということで成熟社会に突入するなかで、どのような成長戦略を示すことができるか、この点が一つの大きな理念になるかと思っております。

もう一つ基本構想のところでも大きな論点になりました市民力のあり方でございますが、未来に向けてどのような都市経営を目指していくか、市民参加と新しい市民協働の枠組みの構築、確かな行財政改革といったことが重要だと考えているところでございます。

次にまちづくりの視点でございますけれども、「まだら化」する地域課題に対応でございます。人口増加が止まるということでありますけれども、地域的にみますと地下鉄沿線、都心、ＪＲ 駅周辺といったところへの人口の集積が明らかにございます。一方で、従来からの団地では高齢化や一部では人口の減少といった状況が始まっております、地域ごとに課題が、隣接する地域であっても課題が異なるといったような状況が生まれてきてございます。この中で地域での支え合い等、安全安心を確保するためどのよ

うに取り組んでいくか、地域政策を重視してまいる必要があると考えているところでございます。

視点の「選ばれる都市」であるためにということなんですけれども、理念の創造的人材の獲得などをお示ししてございますけれども、これからの都市がどのように移っていくかといいますか、どのように活力を維持するかを考えたときに、仙台は現在 of 良好な都市環境と、質の高いコンパクトな都市構造などの魅力を生かしていくことが必要だと考えております。このような魅力を生かすためにどのような都市づくりができるかということを考えたいと思っております。

視点の「学都の伝統や知的資源の活用」でございます。先程の人材の獲得ということがございましたけれども、人材の獲得ということのほか to 高齢化社会になりまして、高齢者の皆さんがたくさんの経験や知識を持って地域にいらっしゃる状況が生まれてまいります。そこで市民の皆さんが地域において、いきいきと暮らすために学びの場をつくっていくことが重要だと考えております。

次に分野別計画でございます。資料7をご覧ください。分野別計画は大きく「市民の暮らし分野」と「都市の魅力分野」に分けてございます。こちらの部会につきましては前段の「市民の暮らし分野」をご担当いただくことになってございます。大きく5項目、「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」、「人が支え合う共生社会づくり」、「未来を担う子どもたちが健やかに育つまちづくり」、「協働による地域づくり」、「市民力を生かしはぐくむ学びの都づくり」の五つの体系を掲げておるところでございます。それぞれの項目ごとの動向と課題、施策の方向、基本的施策といった今回はたたき台でございますので、大きなこういった区分につきまして1ページから11ページまで掲げているところでございます。今回の部会ではこのような動向と課題の区分けでございますとか、施策の方向、そういったことについてご意見をいただきまして、また、庁内の関係部署と打合せをしながらこれから詰めていきたいと思っております。

5番目、重点プロジェクトでございます。現在のところ、一応三つの先程の視点に対応した三つの重点プロジェクトを掲げでございます。1項目が「きめ細かな地域づくり」、「まだら化」する地域課題に対応するといった視点に対応してつくったプロジェクトでございます。地域課題にきめ細かに対応していくため、地域の多様な主体とどのように取り組んでいくか、そのために必要な行政組織の改革と市民参加・協働の仕組みづくりを、プロジェクトとしてまとめたいと思っております。

二つ目、選ばれる都市であるためにに対応しまして、どのような都市構造をつくっていくかというのをまとめたものが、の「美しい杜の都づくり」でございます。資料6を御覧ください。杜の都の自然環境や都市機能を維持向上させながら、コンパクトな市街地を形づくっていくというようなまちづくりの方向性でございます、それを示すデザインの案を資料6として掲げてございます。ゾーニングといたしまして「自然環境保全ゾーン」、「集落・里山・田園ゾーン」、「市街地ゾーン」の三つを掲げております。そして都心と各拠点配置いたしております。2ページをお開きください。図面を付けてございますが、緑のところ「自然環境保全ゾーン」、薄い緑の「集落・里山・田園ゾ

ーン」、黄色、ベージュ、紫といった色で分けられております「市街地ゾーン」でございます。期間の途中、2015 年開業予定の地下鉄東西線も含まれまして十字の都市骨格軸が形成されてまいりますのでこの点、それと人口の急増が著しい仙石線や仙山線といったＪＲ沿線、こういったところに人口集約と機能の拠点を置こうと考えているところでございます。泉中央や長町のような広域生活拠点、青葉山の学術・研究ゾーン、仙台港などの物流ゾーンといったようなものを配置してございます。３ページの図面でございますが、市民生活を維持していくための公共交通の体系図となっております。ＪＲ駅、地下鉄駅を中心にそこへ向かったフィーダーバスという形での生活交通の再編等、その他の地域内で生活を賄えるような生活交通のイメージを図面化したものでございます。

このほか、資料３の重点プロジェクト のところで「学びの都づくり：ミュージアム都市構想」になってございます。若者から高齢者まで、市民も来訪者もということで地域の中で学び、地域資源を再発見していくような魅力ある学びの都づくりを進めたいと思っております。

その他、参考資料２で付けました区別計画につきまして、現在区の方で関係団体などの意見を伺ったりしながら、区の将来ビジョン等について検討を進めてございます。この点につきましては一定程度まとまったところで、各区の方から部会の方に検討案をお示ししたいと思っております。

最後に７番、推進体制でございますが、できるだけ分かりやすい目標を設定と、その目標について、市民協働による評価手法を検討してまいりたいと考えているところでございます。

資料の概要につきまして以上でございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

ただ今のご説明は資料３の基本計画の「２．計画のフレーム」と、「３．理念と視点」はこれでいいのか、それから「４．分野別計画」、特に我々は市民の暮らしの分野として５区分が示されております。それから３の理念と視点のところを受けた重点プロジェクトとして、視点に対応した から をお示しいただきました。

以降、これに関していろいろと皆さんから協議をいただきたいと思いますのですが、協議は大きくは二つに分けてさせていただきたいと思っております。一つは全体のフレームについてであります。基本計画の全体に関する部分と我々の市民の暮らしのところは資料７の１ページから１１ページですか、もう一度全体的な事柄に関しての協議と、それから市民の暮らし分野についての協議の二つに分けてご意見をいただきたいと思います。始めに総論的な協議でありますけれども、資料３で示されました２の計画のフレーム、３の理念と視点、それを受けての重点プロジェクト、これに関して資料も事前配布がされていたと思いますけれども、どうぞお気軽にというか、活発にというか協議をいただきたいと思います。どうぞご自由にご発言いただきたいと思います。

ちょっと硬いですね、空気が。

私が質問するのもなんでしょうけども、事務局を困らすわけでは決してありませんけ

ど、地域という言葉が、地域でもいろんな高齢化が進んだ地域やら、市街地的なところからいろいろあると思うんですけれども、これは区別計画とも関連すると思うのですが、「地域＝区」とは違うとらえ方をしているんですよね。

梅内総合計画課長

地域というのは、区よりももっと細かい単位を想定してございまして、参考資料2をご覧ください。これは区別計画の現在の進め方をお伝えしました資料でございますけれども、2(3)のところに圏域ごとの主な施策ということがございますけれども、区ごとに日常生活圏を考えた地域特性等に応じて、圏域を一応定めたいと考えておりまして、この裏面に各区4箇所から5箇所の圏域を考えてございます。ただ、これも圏域の中でも小学校区単位で見たときに、かなり違う人口動向とか人口構成になっているところもございまして、現在、区の方では各種の人口などのデータをなるべく小学校単位にとか、細やかにとって、その趨勢をみるように今資料を調整して、区の説明会等でもそれを活用しております。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

いかがでしょうか。ご意見をどうぞ。

創造的人材の獲得と書かれておりますけれども、獲得というのと育成というのはちょっと違うのでしょうか。

梅内総合計画課長

両方必要かなと考えてございます。市長などがよく申しているのが、例えば東北大学等で海外からの留学生の方も今非常に多くいらっしゃっているんですけれども、例えば中国からたくさんの留学生がお見えになって、ただし働く場合になっていくと本国等にお戻りになってしまう。全員が戻ってしまうので、そういう方も働くような場所もつukれないかということを申すことがありまして、獲得と書いたのはそういう意味も含めてございます。ただ、当然育成も必要でございまして、両面で人材ということでそれも含めて獲得というふうに考えてございます。

小松洋吉部会長

分かりました。

どうぞ。

菊地昭一委員

理念と視点の中の視点に「まだら化」する地域とありますが、「まだら化」というのは具体的にはどういう課題を、市として「まだら化」する地域課題として捕らえているのか。

小松洋吉部会長
どうぞ。

梅内総合計画課長

「まだら化」でございますけれども、先程申し上げましたように、例えば圏域でありますとか圏域内の小学校区単位でみましても、片方の区では高齢化が非常に進んでいて、例えばもう一つの区域の方ではマンションの増設などがあると非常に若い世帯が入ってきて、非常に人口構成とか人口の増減の動向というのが異なってくる。人口が増加する方には増加する方の課題がございますし、減少する方とか高齢化する方ではコミュニティの問題ですとか、また別の視点での様々な課題が発生してまいりますので、それを指して「まだら化」と表現してございます。

小松洋吉部会長

生活圏域によっていろいろと生活課題が問題が違おうだろうと、そういう意味合いで使っているんだろうと思うんです。

関連しても結構ですし、ほかに。

菊地委員それでとりあえずはよろしいですか。

菊地昭一委員

基本的には人口フレームとか何かを中心に考えている「まだら化」という考え方でいいんですよね。それに伴う地域課題ということで。

梅内総合計画課長

はい。

小松洋吉部会長

どうぞ、針生委員。

針生英一委員

理念のところをちょっと読ませていただいて感じたのですが、一つはどうしても新しいもの、新しく創造していくというところに重点が置かれているようにみえるんですけども、それも非常に重要なんですけども、今足元にある資源を一回磨いて、拾って磨いてつなぐみたいな感覚も非常に必要だと思うんです。どうしてもそういった部分というのはなかなか見過ごされてしまうんですけど、我々地元で商売をやっていると、実はものすごくいいものがあるんだけどみんなそのところに目がいけないとか、そういうことが多分にあるので、そういったものをやはり磨いていく努力というものやはり必要かなと思います。そういったものと知的なものがつながって新しいものが生み出されていく。まったく新しいものを外から持ってくるというのは非常に大変だし、それはそれでチャレンジはしていけないといけないことなんですけど、もっと東北らしさ仙台ら

しさという部分にスポットを当てて、今地元にある資源をもう一回見直して磨くということも理念の中にきちとうたった方がいいのではないかと感じました。

小松洋吉部会長

大変重要なことだろうと思います。今ある資源の見直し、再構築のような感じだろうと思います。ありがとうございました。

柳生聡子委員

同じく3番の理念と視点のところについてなんですけれども、最初にいただいた資料ですと、3番は理念と視点とは書かれておりませんで、基本の方針とあったものですから、自分で読んできた資料を最初拝見しておりまして、理念とか視点ってどう考えるんだろうと、ちょっと自分の中で間違った資料を持ってきちゃったのかしらとか思ったのですが、一回事務局の中で議論があって大きく変わったと思うんです。その辺りの経緯とか、皆様の思いなどがあるかと思いますので、ご説明いただければと思います。

山内企画調整局長

全体構成については事務局として自信を持っていうものではなくて、今ご指摘がございましたように、その表現も含めて、その要素としてもこれでいいのかどうかも含めて、刻々と変化しつつある過程の中での資料としてのご提示ということでございまして、その辺についてはそういったことも踏まえつつご議論いただければと思っております。

先程のご指摘にもございましたけれども、基本構想の中で、資産とか市民力を生かしてという視点で、全体の都市像の目標設定が一方でございまして、それを基本計画の中で、具体的にどう施策として拾っていくか、その辺を施策体系を構築するにあたって、こういった部分に重視すべき視点をおいて、重点的な政策をつくっていくかと、その辺の組立てが未だ不十分なところがございます。いろいろと重複感といった部分もございますし、構成としてこういったものが適切なのかということも、審議会委員の皆様のご意見等も踏まえながら、さらに熟度を高めていきたいと考えてございます。

小松洋吉部会長

よろしゅうございますか。

柳生聡子委員

はい。

小松洋吉部会長

どうぞ、樋口委員。

樋口稔夫委員

私はちょうど区別計画の説明会といいますか、意見を求められた場面が2回ありまし

て、区別計画をお話してくださる人たちも各区の担当の方々が全体の理念などをよく知らないといいますが、まだ理解しないで前の総合計画の何かコピー版みたいな進め方でやっている感じなんです。もう少しその辺の理念をきちっと固めた上で、区の方でこうものに基づいてやってくれないかということがあれば、区の計画ももう少しきちっとしたものできると思うのですが、何か総花的で、こちらで見たらどうかなという感じの部分が多いんです。各区はどうかは分かりませんが、私は泉区なんですけれども、そういうことで各区域の計画をまとめる場合にももう少し工夫しないと、各区で今までと余り変わらないものをまた出してくるという感じになると思いますので、その辺お願いしたいと思います。

山内企画調整局長

進め方のスケジュールの面もございまして、若干不十分な点がある点については、申しわけないと思ってございすけれども、前の総合計画の区別計画との大きな違いとしては、小学校区レベルの情報分析を踏まえてきめ細かな課題認識の基に施策の方向性をつくっていかうという観点もございすし、また、区としての将来ビジョンを今回は初めて掲げていかうということもございす。その全体的な部分での理念との整合性、これはもう当然ではございすけれども、いろいろな全体のスケジュールの中でいったりきたりしながら、その辺はまとめていかざるを得ないということもご承知いただきたいと思っております。いずれにいたしましても、今までと同じということではなくて、よりきめ細かな視点でその地域の皆様のご意見を踏まえつつ、まとめたいと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

小松洋吉部会長

区別の計画というのは、私は大変良いことではないかと思うんです。全部承知しているわけでは当然ありませんけれども、他の政令指定都市の計画を見ましても、区ごとの計画とかそういうのもありますし、より地域性を反映したような格好で計画づくりしているということ、市民にとって大変いいことなのではないかなと、私はこのように拝見して率直にそう思いましたですけれども、そのことに関してもご意見ですね。

樋口稔夫委員

ただ一つ、前は泉は副都心という表現されていた時があったんです。今回は拠点という格好に変わっていますけれども、こういう言葉の違いだけでなく、もう少し位置づけが変わったのかどうか、この辺が分かりにくいんです。そういうことを含めて、理念をきちんと相談しないと前のコピー版みたいな感じになると思うんですね。

大村虔一委員

多分変わったんです。人口が拡大しているときには、基本的な施策として都心のほかに副都心のようなものをつくっていくということだったわけですが、人口減少基調になってきたときに、今ある中心というのをしっかり守って、それがとても便利になるよう

に工夫しなければならないと少し全体の計画のトーンが変わってきているわけですから、そういう意味づけか何かあって拠点という言葉に変わっているんだろうと思います。

小松洋吉部会長

そこら辺も、今後分かりやすくというか、できるように。

樋口稔夫委員

理解してもらったうえで、発言してもらわないとちょっと。

小松洋吉部会長

大変大切なことだと思います。なるほどね。

どうぞ。

梅内総合計画課長

ただ今の副都心とか拠点について、また柳生委員の方からもご指摘ありました理念という点について、資料も刻々変わっておりまして、内部での議論も日々話し合いながら変わっているということで、メールでお送りした時点から3番の理念と視点ということころも今日の時点までで資料が変わっております。そういったことが区の方にまで十分伝わらない間に、説明会等の日程も入れているということで、先程も局長からも申し上げたように時事刻々という中で、区の方との連携も毎日毎日いろんな連絡がきたり、こちらから連絡したりということはしておるんですけども、追いついていない部分があるかと思います。そういう制約のある中で、区の方も含め連絡しながらまとめていきたいと思っておるところでございます。多少の行き違いがあるかと思いますがよろしくお願ひしたいと思います。

小松洋吉部会長

日々良くなっているということなんだろうと思います。

大村虔一委員

よろしいですか。

小松洋吉部会長

どうぞ。

大村虔一委員

計画フレームから図面に置き換えるときに、計画フレームを見てこういうものだから、ある一つの理念を持っていったと考える前に、本当はそういうフレームだとどう困ることがあるのか、今のように暮らしていてどう困ったことや何か起きているのかというのをちょっと少し見なきゃいけないんだろうと思います。よく言われているのは、

例えば100戸とか200戸のような大きなマンションのようなものについて、人が2割ぐらい減ってしまうともうなかなか維持していくのが、共益費だとかいろんな問題でトラブルが起きます。維持していくのが大変なのでちょっと減っただけでも問題になってしまうという状況、同じようなことは20世紀後半に一齐に拡大した住宅地、郊外住宅地も同じようなことが多分起きて、人が減ってくるとなかなかバスを回すにも、回してもなかなか採算が合わなくなるからどんどん減るといって、これじゃあお年を召した方がとても過ごせないといった問題が起きている。そのような問題がどのぐらい、どういう状況で発生してくるのかというあたりを本当はちょっとみないと、心配ごとの大きさみたいなものが、ここで「まだら化」という問題で指摘はしているんだけど、その辺の深刻さをもうちょっと考えなきゃいけないと思います。どのくらい将来で深刻になるのかというのが気になることです。

それから人口フレームや何かを見てみても、仙台は減りますという話が出ているんだけど、減ってもこの図だと100万人をちょっと切るぐらいのところで維持しているわけですよ。だけど、いろんな市町村とか県の人口のグラフか何かをみていると、今まで山型になって下がってくるわけですけど、どこも大体同じパターンなんです。だけど、例えば山形県のグラフをつくってみると、このままずっといくともう間もなく100万人を切るというようなのが、これは切らないかもしれないけどグラフの山の形でこの先同じような状況で減っていけば、何年か後にはそのぐらいになっちゃうというのは、いろんな小学校区をみてもいえる。そうすると100万人切っちゃうというのは、仙台よりも山形県が小さくなるということです。だからそういうものすごい激変が周りで起きているということはどう意識するのかというあたりを、何か計画フレームをみたときに吟味しておかなきゃいけないという気がするんですが、あんまり心配だけしていてもしょうがないのでありますけれども、その辺についても何点かつまみぐいして考えておく必要があります。前にも東北の中での仙台の位置づけというのはどう変わるかというのは、その辺の状況でものすごく変わってしまう気がしますし、たとえどっちの方向に行っても仙台はしっかり地域のリーダーとして、市民が楽しく暮らせるという方向をどうやったら探せるのかということを考えておかないといけないかなと考えていますけれども、まだこっちの方でも何も答えが見つかってはおりません。

小松洋吉部会長

多くのファクターを入れて考えなければいけないというのは確かなことなんです、あれもこれもというのはなかなか難しいと思うんです。そういうことをやっぱり頭に置きながら議論していくことが大切なことだと思います。

はい、どうぞ。

内田幸雄委員

今、大村先生が言われていたのと同じようなこと考えていたんですけれども、要するに計画フレームって、じゃあ3番目はないのか、3番目は何なのかってイメージないんですけれども、期間はいいんですが、人口が減るっていうのと高齢化するっていうこと

だけがフレームなのかなと。例えば今PTAという立場だけで来ているとすると、子供を産み育てていく、このフレームからこの理念でこう実現すると、例えば子供が増え産みやすくなります、育てやすくなりますという方向にいくのかとか、いわゆる10年後の姿がどんなふうにイメージできるのかというところの関係性がちょっと見えないので、先生の話の聴きながら、フレームというのは本当にこの二つだけの枠組みなんだろうかと、いうところで、3番目にこれ入れたらどうでしょうというのがあったらもっと強く言えるんですけど、そこがなかなかなくて、すいません弱いんですけども、いかがでしょうか。

山内企画調整局長

この表現自体もこなれてなくてフレームとしておりますけれども、基本的にはその計画、こういう市全体の計画の場合には人口指標が基本になるわけです。いろんな施策、例えば施設整備にしても基盤整備にしても、人口という指標がどうなるか、これは基本のフレームでございます。

今ご指摘もございました、10年後を見据えているんな施策分野がどうなるのかについては、分かりやすい目標設定ということで、中に中身何も書いてないんですけども、こういった施策分野において、市民の皆さんと共にこういう目標数値を基に目指していこうと、なるほどといったものを分野ごとにいろいろ具体化していきたいと思っております、ちょっとこれは今はまだ検討中なものですから、そういう抽象的なお話しか今の段階ではできない部分もございます。

先程来のお話の中で、大村先生からもお話ございましたけれども、やはり理念、視点という前に、基本計画の位置づけをどうとらえるかというお話かと承ったところでございます。その辺が基本的に、今後10年間という計画期間の中で、人口減少は仙台市としてはまだそれ程でもないけれども、先程の人口フレームの裏面に参考的に掲げてございますけれども、超長期的な人口動向について、大村先生から前からご指摘いただいていましたように、日本全体でみても100年前と、今と、100年後を見据えれば、本当にもうほかの国にないような大幅な山になってまた下がっていき、東北との関係でみても仙台市の比率が非常に高まっているという中でこういった役割を担っていくとか、そういう位置づけとして、どうとらえた上でどういう戦略的な視点を持って、どういう重点的な対応をしていくかという理屈の流れで設計図を整理していきたいと思っております。

小松洋吉部会長

どうぞ、足立委員。

足立千佳子委員

まず地域という言葉について、やはりいろんなとらえ方というか、都市の魅力分野のところの地域という、先程の説明で伺った圏域という考え方だといわれて不勉強で、初めてそうなのか、各区こういう圏域でやるのかみたいで不勉強だったんですけども、耳慣れなかったりとか、市民の暮らし分野からすると馴染みが無いかなとか、そういう

町内会活動とか私たちの生活の一番根幹にあるものといったときには、やっぱり小学校区だったりすると思うんです。そうすると単位コミュニティとか、ちょっといろいろな言葉をもう少し整理していただいて、私たちの生活の暮らしに根付く単位と、それを含めてもう少し広く見たときにはこうで、納得できるような形のちょっと整理をしていただいた方がいいかなと思いました。

後、例えばですけれども、理念と視点の、視点のところの(2) が分野別計画の市民の暮らし分野で、ミクロなところからみたところで、視点の(2) のところが、都市の魅力分野で、マクロのところで見ているという説明になっていますが、そうすると視点の(2) の「学都の伝統や知的資源の活用」というのは、分野別計画に入っていないのかというような感じなのかと、そこがこの説明からはちょっと読みきれなかったりとか、重点プロジェクトには入っているんですけれども、そうしたときに、バランス的にこの(2) 「学都の伝統や知的資源の活用」だけは独立したものなのかとか、それよりはどちらかという、この市民の暮らし分野と都市の魅力分野とどちらも担い手みたいな形で育ちますみたいに、横と縦と串刺しになるのかなとか、そういうところでまだ先程来のお話なり、何かこなれていなかったり、これから設計し直すというお話なんですけれども、もう少しバランスを考えていただいて、ぱっと見たときになるほどと、パズルがすっきりするような形にさせていただいた方がいいかなと思いました。何となくこう先程もどなたかお話がありましたけれども、今まで暮らしてきた方たちのこれからというものがなくて、何か新しいものとか、若い人が悪いわけではないんですけれども、若い人とかということが少し表に出ていて、支えている人たちがどこにいくのかなというのがちょっと見えづらいかなという印象を持ちました。

山内企画調整局長

今のご指摘については、この前の都市の魅力部会でも同様のお話をいただきました。まったくご指摘のとおりだと思っております。一つはまず、地域の圏域とか概念の整理のお話ございました。区別計画で圏域ごとといっているのは、今の総合計画でも同じような圏域といったかどうかは別なんですけれども、区ごとに五つか六つの類似の地域設定があって、人口動向なり基盤整備の状況あるいは地域特性からみると各区のやっぱり四つか五つくらいにおおむねの特性が出てくるんです。それによって課題も類似しているということでのその方向性という書き方にしております、それは継続したいなと思っております。

後はやはり小学校、中学校区で基本のコミュニティ活動がされておりますし、町内会も小学校区域あるいは中学校区域で縁になっておりますので、そういった面での活性化という視点も当然必要と思っております。

後は分野別の体系というのは、市民の暮らしを良くするという分野設定と、都市の魅力を高めるという分野設定ということでのくくりでございまして、これは基本にございまして、ここにその施策全部についてすべて網羅してここでは拾われる構造になっております。それと重視すべき点という部分でどういう重点プロジェクトなり重点施策を拾おうかということが分かりやすく、なるほどと思えるような形に現段階ではなっていない

いというのがあって、いろんな観点でちょっとよく分からないというご批判をいただいているものと思っております、私どももそういった認識の基にもっとすんなりと、分かりやすいような感じの構造に組み立て直す必要があると思っております。

小松洋吉部会長

大変ありがとうございました。

生活圏域だの、介護保険では日常生活圏域の考え方がご存知のことと思いますけれども、確か40いくつかだったような気がしますけれども、それとの整合性が必要なのか必要でないのか、混乱が少ないように整理していただければいいのではないかとちょっと感じたりもしました。

まだ、たくさんご意見もあると思いますが、またこちらの方に当然フィードバックしても構いませんので、とりあえず全体的な事柄はひとまずおきまして、二つ目の資料7の方でしょうか、市民の暮らし分野の体系から、ここに5区分が示されております。11ページまでが我々の守備範囲のような感じですけども、これに関してもいろいろとご意見があるのではないかなと思います。関連するところもあると思いますが、余りとらわれないでご意見をいただければいいのではないかと思います。

どなたからでも結構です。

どうぞ大村先生。

大村虔一委員

ここにあるたたき台は、市民の暮らしの分野というのを、施策に将来結び付けるための体系を、どんなふうに担うのか、それでそういうことによって市民力のいろんな暮らしに対するニーズをいろいろ拾い上げようという視点から、つくられていると思うんですけども。

もう一つの視点で忘れてはいけないと思うのは、この基本構想の中で、仙台の未来を創る市民力といったときに、市民が自ら望んでいるもの、自ら実現するために夢を描いてそれに汗を流してそれを実現していくというプロセスをどうつくるかという、今日の基本計画でいうと、推進体制の話だとか何かと絡むやつが多分とても重要なのではないかなと思うんです。私の考えでは今市民が何を望んでいるのか、どういうことを望んでいるのかをベースにして、ゆくゆくそれが計画に盛られてそれが実現されていく様を市民がいわゆるチェックをして、じゃあもっと実現される方向に行こうというようなことをやっていく仕組みをどうつくるかということがとても重要で、それを行政にお願いするという仕掛けだけではなくて、市民も自分たちで行動してそれを勝ち取っていくという話がここでいう市民の未来を創る市民力あたりにつながるのかな。いずれも推進体制の話があるんだけど、NPOだとか企業だとか何かと仕事分担してやりましょうという総論が書いているんだけど、具体的にじゃあどうしたらいいのかというのがなかなか読めないというか分からないことがあるので、その辺を突破する必要があるかなと思うんです。そのときに僕とても大切なのは、市民のニーズというのは、子供をちょうど育てている、あることに夢中になっているときには、その問題はよく見えるけれども、お

年寄りの問題とか自分が今かかわっていない問題は見えないというのがごく一般的な当たり前の話です。しかし、こういうコンピュータや何かがみんなの家にあるようになっていろんな情報が見れるようになっていて、いい情報提供さえしてあればみんな他人の問題がこんなに大変なんだということが見て取れるという状況に非常に近づいていると思うんです。そういうものを市民が自ら勉強したうえで、みんなでひとりよがりではなくてもっと積極的な意見を言うような市民力というものを育てる話になったら素敵だと思っているんですが、そのための行政の情報公開の仕方や仕組みとか、あるいは情報が非常に分かりやすいNPOから何かから解説されて、みんなに聞く仕組みだとか、その辺の話がこの推進体制あたりに入ってくるといいのかなと思っています。ですからこの切り口、これは縦に切ってるんだけど、横に切るみたいな別の切り方も意識しながらやると、少しこの整理もちょっと変わって見えてくるかなという思いです。

小松洋吉部会長

大変ありがとうございました。大変重要な点をご指摘いただいたと思います。情報のシステムのあり方なんかも、大変重要なことだろうと思います。主体的に行動する市民をどう育てていくのか、あるいはネットワークするのかという辺りもポイントだと感想を持ちました。今の意見に関連してもかまいませんので。

どうぞ白川さん。

白川総合政策部参事

では今の委員と部会長からお話いただいた点に、今事務局でどんなことを考えているのかということを一言ご説明させていただきます。

推進体制のところのこの資料3の中では「分かりやすい目標設定」と「市民協働による評価手法の検討」それから「財源的裏づけのある実施計画策定」の三点が書いてあるだけなんですけれども、大村先生からお話いただきましたとおり、市民協働による評価手法の検討というのは、非常に大きな分野だと思っております。評価ができるようになるにはそれだけの情報が市民の方に正しく伝わっていて、何らかの形で自分たちがかわっているもの以外の部分についてもかわっていただいて、それから自主的な活動がもっともっと広がって、仙台市の都市をどうやって経営していったらいいんだろうかと。決して都市経営というのは行政に任せておいていい問題ではなくて、いろんな人たちがすべて経営にかかわっていく、今企業なんかもコーポレートガバナンスという言い方をされて、社長が考えるだけ、従業員が考えるだけではなくて、株主であるとか、お客様であるとか、その地域の人とか、いろんな人たちが当然その会社のことを考えなきゃいけないということが言われていますけれども、まさに都市も同じ状況になっておりまして、そういった都市をこの仙台という都市をどうやって経営していくのか、それをみんなで考えていく仕組み、そのためにはまずもっともっとみんなが参加できなければなりません。参加のベースにあるのは当然情報ということで、情報公開を徹底するということは一つすごく大事だと思っておりますし、それから公開しただけで、それで誰でも見せているんだから分かれというのは余りにもひどい話で、一体それがどういうこと

を示しているのかというのが、できるだけ分かりやすい形で提供していかなくちゃいけない、しかも提供されたものにいろんな人たちがアクセスしやすくなければいけない。そういったところから参加を広げて、協働でできる分野を広げて、さらには自分たちでやっていくという、自主とか自治とか言われている部分を増やしていけるような、そういう形で段階をあげながら、都市の経営をうまく回していく仕組みをつくっていかうということ、もちろん行政だけでは考えられませんので、市民の皆様と一緒に考えていけるような、そんな仕組みをつくっていききたいというのが、実際には評価ができるようになるためのベースだと考えております。その上で、一体その目指したものがどうなっているのかということが一緒に評価していけるような、そんなところまで、まだ行けたらいいなという段階なんですけれども、そういったところを考えながら、この推進体制というのを、都市経営という形でまとめていききたいと考えているところでございます。

小松洋吉部会長

まさしく現代のコミュニティガバナンスというか、参加に結びつく情報のあり方みたいなものが、大変重要なことだと思います。今後また考えていくとしたいと思います。

ほかいかがでしょうか。

よく、市民活動などの話で耳にするのは、活動拠点のことですね、話題になっているときありますね。既存施設、学校の空きなんかも利用は難しいのかもしれませんが、そういう既存施設の市民力の向上というか、活動に結びつけていくとかということも考えられるのではないかなと考えているでしょうけれども。

どうぞ、ここのところは我々の分野ですので、ご自由にたくさん、今日お示しされたのはたたき台ということで、まだ決まったものでもありませんし、たくさんのご意見をいただいて、また検討していただくというふうにしたいと思います。是非どうぞ。

樋口稔夫委員

よろしいでしょうか。

小松洋吉部会長

どうぞ。

樋口稔夫委員

施策の体系の中で、市民の暮らしで一番上の「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」と「人が支え合う共生社会づくり」に共通している問題なんでしょうけれど、先程の人口フレームでも65歳以上が大体4人に1人とか、それが半分近くになっちゃうような話出てきましたけれども、結局、市民が健康づくりに取り組み、健康な状態でずっと暮らせればよろしいんでしょうけれど、最終的に何かの格好で自分1人で暮らせない状況が起きるということは、元気で暮らせるということだけがここできちっとあがっていますが、そういう終末医療とかいろんな問題がかなり多いんでけすれども、そういう部分について、何か少し今後の社会の中で大きな格差になるというのをに入れておかない

と、本当の計画として生きていかないんじゃないのかという感じがします。この問題が何か、どこにも余りはっきり表現されていないような感じがしているんですけども。

小松洋吉部会長

公的なサービスだけではたちいなくなるというので、新たな公とか新たな公共なんていう言葉が最近ありますけれども、いわゆるこれまでの行政に市民活動をプラスしたものが両輪となっていく形のことを指しているんだろうと思います。

当然、当局も問題意識はお持ちのことだろうと思っています。何かコメントすることありましたか。

梅内総合計画課長

ご指摘のような点は重要でございまして、高齢社会ということでございますので、医療でありますとか、ご指摘のあった介護関係の施設等の指摘、またそうなる以前の総合的な施設等もいろいろ必要になってまいります。そういったことも当然中に入ってくるところでございますので、ちょっとまだ細かいところまで先程ご指摘ありましたけれども、新しいとかそういったことが少し先走っている部分がありまして、着実にやっていく部分というのは、当然しっかりこの後入れていく予定でございます。そういった点のご指摘を本日いただきまして、どういう体系で組み直すかということの中で検討したいと思っていますので、たくさんご意見をいただければ思っているところでございます。ありがとうございます。

小松洋吉部会長

ありがとうございます。

どうぞ。

菊地昭一委員

今のことに関連して、最初の「健康で安全に安心して暮らせるまちづくり」の中で、生活習慣病の予防など、健康づくりが求められているというのは非常に、まあたたき台なので抽象的なんでしょうけれども、もう一つ、今恐らくこれから増えるだろううつ病とか、ある意味では新しい社会病など発生するというときに、うつが原因となって自殺が増えているというのもあるので、その生活習慣病の中に含まれている考えなのか。新たな形で、きちっとどこかに入れてもらった方がいいかなと思っているんです。その辺も是非考えていただきたい。

小松洋吉部会長

ありがとうございます。

どうぞ。

佐竹久美子委員

同じ市民の暮らし分野の1のところなんです、例えば1 - 1 - 2のところの新市立病院を建設するとあります。救急医療体制をもう少し進めていかなければならないということで、新市立病院とつながっていくんですけども。今現在、ほかのところでもたくさんそういうものがありますが、今現在市が例えば救急医療体制を進めていく上で、まず市立病院をこうしますとか、いろんな分野で、今市がこの辺までいっているというあたりをもう少し盛り込んで、この次、このように進んでいくというようなもっていき方を、もう少し全体の中で盛り込んでいった方が分かりやすくいいなと思います。

小松洋吉部会長

佐竹先生のそういうご意見ですけども、コメントすることありましたら。

梅内総合計画課長

計画ということでみますと、現状どのくらい書けるかという課題がございますけれども。中間案に向けまして当然21プランの振り返りということも、現在準備しております。この間進めてきました医療だけではなくて、保育サービスも含めいろいろ課題と言われている分野についてもこの間進めてきたことがあって、それについてどの程度やってきてここは課題なのかという振り返りと合わせて、合冊になるかどうかは置いておいて、そういう振り返りの部分とこれからこうやっていきたいという計画の部分を、一緒にお示しすることが必要だと思って現在準備を進めております。

小松洋吉部会長

どうぞ。

内田幸雄委員

すみません、一つは資料7の中の項目を見ていると基本施策となっていますけれども、A3版の資料3の方になると分野別計画の中が政策という8政策、6政策とこの言葉の施策と政策ってどういう違いがあるんでしょうか。

小松洋吉部会長

どうぞ。

梅内総合計画課長

ちょっと、資料の統一感がとれていなくて大変申しわけございません。役所の中での用語なものですからうまく使えていないと思うのですが、一般的には私どもは一つ一つ取り組んでいる事務事業という単位の取組がありまして、そういったものをまとめる一つの体系について施策と呼んでおります。それで資料7の方では、基本的施策、方向性を示すものということで施策ということでお示ししました。ここから上になると、市の方というよりは各々の方の分野になるかと思うのですが、施策を大きくまとめるものとして政策ということが言われたりしまして、政策という用語と施策という用語

をちょっと混同したまま資料をお出ししております。恐らく私の理解では、資料3の方も施策というふうに統一すべきだったんだろうと思ってございます。申しわけございません。

内田幸雄委員

すみません、先程参事から評価の話が出ました。ちょっと斜め読みですけども、後ろの都市の方の施策を見ると、例えば印象に残っているところとだと、川の名前が出てきたり、何が出てきたりとかう極めて具体的なことが非常に入っているのに対して、我々の方の前段の部分は今の市立病院のように具体的なものもあるんですけども、僕の言い方でいうと、目で見えて美しく耳で聞いて心地いい言葉がいっぱい書いてあって、じゃあこれが一体何につながるのかというところが分かりません。これが基本的施策として幅広くとらえて、それをより具体化させていくという意味であれば、もしかしたらこれでいいのかもしれないんですけども、何か都市の魅力分野と比べると非常につかみ所がない、結局良いことを言われて煙に巻かれて、何やっているんだろう、どうするんだろうという印象をもつ言葉が多いんです。こういう枠組みの中からその評価という指標をどう立てていくかとか、後多分予測とかそういったものが、きちんとできないと、評価ってなかなか難しいと思ってまして、ここら辺のこの推進体制の中での評価ということと、我々の部会と都市の方の部会との言葉の置き方といいますか違いをちょっと感じたので、もうちょっとどうしたらいいのかなと思っているんです。

大村虔一委員

今おっしゃった政策と施策の話は、多分僕の理解では、政策というのはかなりポリシーがある、ポリシーに基づいてこういう方向で仕事をしていきますということで、それを実現するためには、どういう仕事に分解して仕事を進めたらいいかということがあって、いくつかに分解してそれはプロジェクトの単位のようなものになり、施策という言葉で言われているのが一般的だと思います。

内田幸雄委員

だとすると、この政策の方に対して施策の方がですね、何か結構抽象的だというか、きれいな言葉が多くて、目標というか、その数値的目標もそうですし評価指標が出づらいなという印象をもって読んでいたので、施策と政策でどういう言葉の違いがあるんだろうか。もし施策というと方向性を示すということであればこれでいいのかもしれないけれども、この辺の言葉のところもなんか大事だなというのが改めて感じました。

小松洋吉部会長

ずばり言うと、施策の方にもう少し具体的にした方がいいということですか。

内田幸雄委員

もしやるなら、施策という形で評価指標をたてられるものにするんだとすれば、都市

の魅力分野のように具体的に名前が入った方がいいんだろーと思いますし、A3の資料3のように、政策というような方向性でみるのであれば、これからプロジェクトが立ち上がってくれるのであれば、またこれでもいいのかもしれないし、だからどっちなのかなというところです。

山内企画調整局長

基本的な記述の程度というのは、今の仙台市基本計画も資料としてお配りしていると思いますけれども、その分野別計画と同じレベルを想定しております。具体的には計画期間の中で具体化できる政策については、当然具体的な記述に高めていき、それでなかなかというところは抽象的になるかもしれませんが、いずれにしてもこのたたき台については、いろんなプランニングあるいはいろんな庁内の作業の熟度というものもございまして、この第一段階のたたき台なものですから、非常にこう不十分さは否めないと思っています。そういうことで、ちょっとまだ抽象度が高い形になっておりますけれども、庁内的にはさらに具体化できる部分は具体化という方向で今作業を調整しておりますので、この審議会の中でもさらにご指摘、ご意見をいただいて、その可能な限り具体化できるものは具体化していきたいと思っております。

小松洋吉部会長

どうぞ。

柳生聡子委員

私もやっぱり、後に評価をしていくのであれば、より具体的じゃないと何を評価していいのかも分からないですし、私も都市の魅力分野の方により具体的な固有名詞だとかが出てきていて、でも前半は非常に抽象的なので、どっちにトーンを合わせていいのかという疑問があったんですけれども、やはり今議論を聞いていまして、より具体的の方が後々のことも考えてもいいので、もっと部会の中で詰められるところは詰めていくべきなのではないか、個々に皆さん得意分野があると思うし、仙台市民として暮らしている実感を、やはりぶつけていいのではないかなと思うんです。

小松洋吉部会長

恐らくですけれども、ここの施策というのもいろんな分野のいろんなセクションの方からいただいてそれを整理したというので、私は何かよく具体的にはめ込んだものだというふうに実は思った次第ですけれども、それをより具体化していくということは大変いいことだと思います。以後検討していただくことにしたいと思います。どうぞ、白川参事。

白川総合政策部参事

関連して。都市の魅力部会で出てくる固有名詞、国際音楽コンクールですとか七北田川ですとか、本当にそれ一つしかないものはたくさん出すことができるんですけれども、

七夕まつりとか出せるんですが、例えば前段の市民の暮らし部会で介護の問題についてお話が出ましたけれども、地域包括支援センターのことを書こうと思うと、葉山の地域包括支援センターと岩切の地域包括支援センターではその地区はこういうふうに違っていてということで、それを中学校区すべてについて書くと本が一冊できあがってしまうような状態になるという難点が一点あります。なかなか具体的に書いていくことができないんですけれども、だからといって介護の分野について評価が必要でないと考えているわけではなく、今、柳生委員がおっしゃってくださったように、市民の実感でどういうふうに思っているのか、それから内田委員がおっしゃったアウトカムの指標を一体どうとるんだというのを、そこを結びつける仕掛けというのが必要だと思っています。イメージとして、この地域の福祉レベルが上がったら安心して年をとれるというふうに実感できると思ってくださる方がどのくらい増えたんだろうかというのは、恐らくアンケートレベル、意識調査レベルでしか残念ながらできないと思うんです。でも一方で、アウトカムの指標ですとかアウトプットの指標ですとか、具体的な数値が取れるものの中にはあると思うんです。具体的に介護を必要としている方の割合が増えたとか減ったとか、それからそのための施設が増えたとか減ったとか、必ずしも施設が増えたことが幸せにつながらない場合もありますし、とても難しいんですけれども一つだけで評価することがとても難しい分野がこの市民の暮らし部会だと思っていますので、より具体的な実感をとらえられるように、そういったいくつかの指標を組み合わせながら考えていかなくちゃいけないなということで、では一体どんな指標を取るつもりでいるんだというのを早めにお示しできれば本当に良かったんですけれども、今日用意できていなくて大変申しわけありません。そういった形で組み合わせて、できるだけ実感のこもった評価をしていただけるような仕組みをつくりたいと思っています。ですから今のうちに、何、どういうふうになると幸せになると思えるのかみたいなお話で、私たちの実感というところは、どういうところにあるんだ、子育てがしやすいというまちの実感というのはこういうときに感じられるんだというお話を是非付け加えていただけると非常にありがたいと思います。ありがとうございます。

小松洋吉部会長

たいへん中身の濃い議論をいただいたと思います。ありがとうございました。

水野紀子部会長代行

ちょっとお伺いしたいんですが、先程市民の協働つまり市役所がするのではなくていかにして市民全体で考えていただくことを、大村委員でしたでしょうか、横軸に一つ必要なのではないかというご意見があって、そのときに話題になったのが7の推進体制の中の市民協働による評価手法というところだったんですけれども、ここで言われているのは、主に評価の手法がむしろ力点だという気がいたします。そしてその市民の「協働による地域づくり」というのが、市民の暮らしの中が五つに分かれていて、そのうち前の三つと、それから一番最後の「市民の力を生かしはぐくむ学びの都づくり」、この部分がいわば市民の生活の健康的な生存であるとか、成長であるとかそういう目標のよう

なものが書かれていて、4番目の「協働による地域づくり」だけがいわばそれとはちょっと異質な、ハウツーの手段の部分が書かれているわけですが、その含めたこの4の「協働による地域づくり」というのが横軸で全部に掛かってくるという位置づけになると理解してよろしいでしょうか。

その点のご説明が一点と、それからそういう整理がなかったらどこかでしてもいいかなという点が一つと、それから当初、これまで気づかない大事なものをというご発言があったんですが、趣旨はいろんな理解ができると思うんです。つまり我々の身近の、失われてみないと気づかないような治安であるとか、あるいは周囲を思いやる教則ある種のエチケットみたいなこととか、あるいは仙台市の持っている自然とかそういう側面もあるんだと思うんです。そういう話はどちらかというと、全部で考えなきゃいけないんですけども、もう一つの部会で考えなきゃならないこともたくさんあると思うのですが、そういう側面とはちょっと違う側面で、今まで持っているその市民社会の協働の仕組みというのがここには全然具体的には現れてこない、つまり町内会であるとか民生委員であるとか既存の協働の仕組みというのが、どこまでどういうふうに新しく組み直されるのかということを常に考えながら、新しいものをつくりだしていかなければならないと思うんです。協働の仕組みをつくるというときには、まったく新しいことをつくりあげていくよりは、既存のものとまた力を合わせて新しいものをつくりあげていく方が、はるかに現実的であろうと思うのですが、既存のものの評価が足りなかったところ、あるいはそれが固定化して歪んでいるようなところがあるとしたら、あんまりこういうところで悪いこと書けませんけれど、なんか市政の悪口なんか書けませんけれど、でもそういうものをむしろ積極的にある意味で評価をしながら、でも新しいものを付け加えていくというような形の書きぶりが少し入った方が、もう少し具体化のレベルが上がるかなという気がいたしました。

小松洋吉部会長

既存の仕組みとの共栄というか、新しい力をつくっていくというのは、そういう意味合いのことで大変まさに必要なことなんだろうと思います。

梅内総合計画課長

ご質問が二つあったかと思いますが、前段の点につきましてはまさにご指摘のとおりでありまして、私どもが話している中でも、この市民の暮らし分野の上から四つ目「協働による地域づくり」というのは、それで何をするというその目的を示しているよりは、どちらかというと全体に通じる手段、ハウツーのようなものをより強く出しているところでございます。ただ今回「まだら化」する地域課題に対応していくという大きな視点を掲げたわけですが、その上では非常に重要になってくる部分かなと思っておりまして、この部分を一つハウツーの要素が非常に強いんですが、一つ掲げてはいいかがかと思って、ここに入れてございます。

後段の方のご意見につきましても、まったくそういった議論を今日の午前中も別の庁内の会議でしていただきましたけれども、もちろん町内会等従来からある地縁の団体には、

従前と同じように非常に熱心に取り組んでいただいておりますけれども、中には若干関係が悪化したり、難しいところが出てきている団体も一部にはあると思っております。また、NPOをはじめ特に福祉の分野などでは、部会長もよくご存知のとおりでございますけれども、従前の措置というどちらかというと行政作用的な部分から、介護保険などにありますように契約といいますか、市民の分野との契約という形で福祉サービスを提供するというふうに徐々に全体のスキームも変わってきてございまして、受け手の方が当然多様になってきてございますし、柔軟な対応が可能になっている分野も多く出ているという中で、こういった役割分担を今後考えていくかということを中心に大きなテーマにしたいと思っております。従前からの市民協働とこれからの市民協働、そういったことがどうあるべきかという方向性についても、庁内でも難しいところではあるんですけれども今話し合いをしております。ご意見をいただければ、そういったことも参考にしながら、計画の中に入れていきたいと思っております。

小松洋吉部会長

ありがとうございます。

どうぞ、針生委員。

針生英一委員

今の話を聞いてなんですが、基本計画の中にも連携、ネットワークの拡大という言葉があって、いろいろなところに実はネットワークの構築という言葉が散りばめられているのですが、今の話の中でも「協働による地域づくり」というのがすべての項目にかかわってくる。そうするとセクターを越えてつなぐ機能というのがものすごく重要になってくると思うんです。これはやっぱり我々も現場でいろいろな活動をしていると、やっぱり行政はよく縦割りだと言われますけれども、地域も縦割りになっていますし、NPOもその分野で縦割りになっているということも非常に多いわけで、そのところをセクターを越えて上手につないでいく機能をかなり戦略的にやっていかないと、何となくつながるということも稀にはあるんですけれども、やはりなかなかそのところは戦略的に仕掛けていくということも必要なので、そういう機能をやはりもっともっとつくって、この地域につくっていかないとですね、例えば、ごく一部のそういう支援セクターだとかということだけではなかなか仙台市全体はカバーしきれない、こういうことがあるだろうと思います。

教育に関してもあるんですが、その部分にも市民協働を担う人材の育成というのは、やっぱり教育の中にも持っていくべきだと思うんです。今新しい公共という言葉も出てますけれども、もちろん3年や5年でそういう子供たちが育ってくるということではなくて、仙台市の風土として体質として、その市民協働を担う人材育成というのは学校教育からきちっとやはり位置づけてやっていくべきだろうと、そうしないと我々のように企業戦士みたいな形で、もう社会に出てしまうと全く地域を振り返らずに年をとっていくということではまずいので、そういう部分は企業も含めて、いろんなセクターを地域につないでいくような、強力なエンジンが必要なのかなと感じました。

小松洋吉部会長

後段の方は、中長期の大変大きな課題だと思いますが、そのネットワークを構築するときの、コネクト機能というか、及び人材というか、これも大変欠かせないことなんでしょうと思います。

樋口稔夫委員

市民協働というと、我々の団体である支援組織としての町内会とか自治会が今一番中心的な存在として、地域固めてやっているわけですが、やはり今までの協働というのは、そういうものから外れた部分、町内会であんまり関与しない部分も大体やってきているわけです。町内会で最近問題になっているのは、市でお願いしてもなかなかできない部分が多くなってきているんです。財政的な問題もあるでしょうけれども、そういう場合に、市のこともどうやってカバーするかとなると、やはり地域としてみんなが必要だというふうによっぽど共通の認識にならないとできない。後、今さっきからお話があるように、今までのセクションで考えると町内会単位だけではちょっとそういう課題に対応できないというのがありまして、大きい組織をつくってやっていくとか、専門的な部分だと専門性の高い人達だけ集まってやってもらうとか、そういう拠点づくりがまず必要なんです。拠点が今無いというのが一番、大きい組織にした場合に、町内会ぐらいですと町内会の集会所とか、そういうところでやっているわけですから、やっぱり拠点をつくって、アドバイザー的な人がいて、きちっとやっていく組織を長く持続していってもらうというのが大事なんです。一時的には立ち上がっても、指導者的な人がいなくなると、さっといなくなっちゃうというのが今大体そういう団体が多いんです。その辺も含めて、持続的にやっていくためには拠点をつくって、拠点にはアドバイザーがいて、やっぱりある程度常時エンジンを掛けてあると、皆あちこちそれをしていかないと、なかなか協働というのが進まないのかなと思います。

後、どういう部分ををお願いしたいというのは、行政でお願いする部分もあっていいでしょうし、地域で発見してすべてをやっていくというののも必要ですし、それはいろんな課題によってちょっと変わると思います。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

どうぞ。

山内企画調整局長

私も昨年太白区長でありまして、地域のいろんな昔の実態について教えていただきまして、やはりいろいろ地域ごとに担い手として、いろんなキーパーソンがしっかりしてらっしゃって、横の連携が広まっている地域だと行政が云々ということもなく、いろんな地域の個別の課題について前向きに地域住民主体でいろいろ解決しているという事例もございますし、一方ではその辺がなかなか連携がうまくいっていないというところに

については、やはりその辺をしっかりと行政が支えて連携を広げていくような仕組みが必要ではないかという問題意識の基に、今地域政策全体について、仕組みとしていろいろ拡充していくような仕組みをこの基本計画の中に落とし込めるように、関係部局で今連携して検討しておりまして、先程ご指摘のあった点についても、具体的にそういった対応ができるようになっていくんじゃないかと思っております。いずれにしても、そういった地域が自らいろいろ解決できるような仕組みづくりというのをいろいろ考えるべきかなと思っております。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

どうぞ、阿部先生。

阿部一彦委員

はい、今のお話を伺いながら樋口委員からも出ましたけれども、やっぱり持続的に対応していくということがすごく大事だと思います。そのためには、これまで出たことですけれども、私たちは確かにホームページ見るといろんな情報がありますけれども、適切な情報の収集と加工と発信という機能が、例えば先程の樋口委員の拠点というところと併せてあると、とっても分かりやすいんじゃないかと思いました。

それから先程参事からもお話ありましたけれども、具体的にするときになかなか難しいのがこちらの領域なのかと思うとともに、今個別計画の策定が行われはじめると思いますので、そのような状況を随時事務局から示していただきながら、その指標としても先程の参事の言葉で、例えば幸せとか幸福感というのもありましたし、後はここには安全と安心という言葉もありますけれども、やっぱり社会で孤立していく問題ということも、委員どなたかからご指摘ありました、信頼感というか信頼という指標もとっても大きいのではないかと思います。安全と安心だけではなくて信頼というのもすごく大事なのかなと、信頼できる地域社会を築くことがすごく大事なのかなと今思った次第です。

この計画自身は他の個別計画よりも長い計画でありますので、余り具体が書けるかどうか分かりづらい部分があります。川はずっと見ていけばいいのかもしれませんが、やはり私たちの分野というのは、社会の要請、時代の要請に基づいてその価値観が変わる分野ですので、普遍的な価値観、先程の幸せとか信頼とか何かそういうものが入れば、他の個別計画は5、6年でその間にまた変わったりしますけれども、普遍的なものの指標というのは個別計画では多分できないのではないのかと思うとき、やっぱり基本計画の大事さということをお話を伺っていて思いました。

そういうことでメリハリのない発言になりましたけれども、大事な計画策定だなということをさらに実感しました。

以上です。

小松洋吉部会長

どうも、大変ありがとうございました。

どうぞ。

菊地昭一委員

地域の話が出たので、市民の暮らし分野の中では、地域が非常にいろんなところに、資料の中にいっぱい出てくるのですが、樋口委員が言われた町内会長が市の行政の部分もある意味ではすごいその代わりとなっていく役割というのは非常に大きいと思うんです。さっき局長がいった町内会だけじゃなくて、新たなネットワークが必要だということも、いろんな相談を受けながら町内会を見ていると、町内会の中でも温度差があるというのが恐らく実感だと思うんです。だからそういう意味では町内会の温度差があるのを、非常に活発な町内会もあればなかなか規模の低い町内会もあれば、じゃあそのネットワークを町内会のネットワークをないがしろにするわけにはいかないんで、それを生かしながらどう新たな地域コミュニティをつくっていくというこれからの大きな課題が市民の暮らしの中にかなりかかわってくるので、その辺恐らくどこも仙台だけじゃなくてどこの大都市でも抱えるこれからの将来構想の大きな部分だと思うので、そのこのところをしっかりお互いに考えていかないといけない部分だなと思って、この点をよろしく願いしたいと思います。

小松洋吉部会長

ありがとうございました。

いかがでしょうか。ほかは。

どうぞ、足立委員。

足立千佳子委員

先程私の申し上げた設計というか体系図がきちんと対応されていないので、なかなか分かりづらいかと思います。例えば政策というか目標で協働による地域づくりという目標があって、ここで動向と課題が出ていますが、動向と課題すべてに対応した施策の方向が無く抜けているところもあります。そしてまたそれに対して、先程白川参事がおっしゃったような目標というか幸せ感、幸福感が、こういうことになったら幸せだと思いますよねとか、例えば目指すはやっぱり値、目指すは10年後の姿みたいな政策評価指標みたいなものもここにあった方がいいんだろうと思いながらみていました。

私はずっとNPO活動をしていて、今すごく違和感をここに覚えているのは、NPOは地域づくりとかまちづくりとか地域活性化とかいろんなことはやっておりますけれども、今回ここで見たときに、協働による地域づくりというとコミュニティの中での協働というところしか書かれていないんです。私どもがやっているNPOだと、都市計画とか公共交通問題とかというところにも参画して活動させていただいておりますが、そういう都市経営にとか他の施策への参画というところが恐らく抜けちゃっているのかなという感じがいたしました。

そんな感じです。とりあえずは。

小松洋吉部会長

後段の方のNPOの活動というのは、まさしく都市経営に参画されていますし、すべきだし、それなりに市民参画の評価がされているんだろうと思います。

山内企画調整局長

先程来、何度かいろいろ同じようなご指摘がございますけれども、まさに設計図も分野別計画の実際の記述の中身もまだまだ不十分と認識しておりまして、ご指摘のとおりでございます。この辺基本構想自体も、設計図だと中身が最終的に詰まった形に見えませんが、基本計画の全体の設計、更には個別の不足分がどういったものかとか目標をどうするかとか、やはりこう全体的により具体のものをまずはたたき台としてまとめないと、その整合性のあるような部分というのは評価もいただけないと思っておりますので、その辺の作業を今必死になって全体制で進めておりまして、次回には全体的に、今日のご意見踏まえた中で整理してお出ししたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

小松洋吉部会長

どうぞ、大村先生。

大村虔一委員

今の足立委員のお話ですけれども、NPOがやっている仕事の、足立委員がおやりになっている仕事のある部分というのは、本来行政が取り組んでいるんだけれども、行政にどこかまだ穴が空いているようなところを、市民の生活感覚から埋めるという形で多分取り組んでいるんだろうと思うんです。そういう役割というのは、どういうところに位置づけるかという、多分協働による地域づくりをするときの市民と行政やなんかを結びみんなにそのことを分かってもらう仕掛けだとか何かを、行政の人が言うよりも分かりやすくというか、人と付き合ってきたことで分かりやすく説明ができるというような特色で位置づくのかなあなんて思っているんです。だから、今日の話にはあんまり書いてないけど、至るところに顔を出す可能性はあるのかなと思ってお話を聞かせていただきました。

それからこの施策体系みたいなものをつくろうとすると、どうしても既存の省庁がいろいろな制度やなんかをつくって、それを自治体に示して仕事を促していく。従来のやり方とのかかわりが見えてくるわけですけれども、地方自治で市民のニーズに沿っているものをつくるというときの施策体系の柱というのは、本当にどうあったらいいのかということを考えると大問題で、大変面白いテーマと思っております。行政がこの施策体系を取りあげようとするときに、こっちの方を先にしてくれとかこっちをしたいと話がいっぱい出てきたときに、どういうふう to それをやっていくのか、こっちにプライオリティがありますよというやり方もあるし、AとBとCを同時に少しずつやるよりはまずAをやってしまって、できあがってしまってからBをやるとかなり早く進みますという世界もあるし、そういう非常にテクニカルな領域や何かも駆使した意味での体

系への反映というか、そのようなことが議論されると面白いのかなと思っています。ちょっと無いものねだりみたいな話で申しわけありません。

水野紀子部会長代行

ちょっと私の専門の話になるんですが、先程アドバイザーというお話もありましたし、それから市民の協働を対応してというときに考えていましたときに、プロフェッショナルが分かっているいろんなハウツーというのがあります。例えば、この前の事件で弁護士さんがDVの夫に殺されてしまったという事件がありましたけれども、そういう非常に特殊な危険のある人々という、いろんな領域でたくさん出てきております。法律関係者達は今どうしてこんなに人格障害者が増えてしまったのかと頭を抱えているのですが、昔ですとそれこそ村落共同体という形でお隣の家が平気で家の中に入ってきて交流するという社会で、そういう社会での育ち方ですと、真の常識とかあるいは町内会の自然な助け合いみたいなものを活性化していけば、それで常識的な判断で援助すれば何とかするという社会だったわけですが、今はもうコンクリの箱の中で孤立した家庭の中で非常にいびつな人間が育ってきているという事態があって、そういう人々に対しての、最初にうつ病なんかに対しての医療の問題もあるというふうにおっしゃいましたけれども、そういう発言と重なってくると思うのですが、下手な常識的なアプローチをすると非常に危険なことが生じてしまうと、うつ病の方に励ましてはいけないようにそういうのも話し合ってみたらみたいなことを言うと殺されてしまうとか、子供の奪い合いで子供に非常に危険なことが起きてしまうとか、たくさんプロの知恵を借りてアドバイスを受けないとならない、そして相談に当たる人がそういうリスクを負わないといけないという事態がたくさん生じてしまっています。ですから、市民の協働を図るときには、同時に市民の啓蒙といいますか、専門的な知識も与えつつという仕組みを何とかつくっていただかないと、ただみんなで助け合いましょうだと非常にリスキーなことが起きてしまいますので、その点は制度設計の中でもお考えていただければと思います。

小松洋吉部会長

すごい難しいです。ですけど、そういう社会になっているんでしょうね。

水野紀子部会長代行

そういう社会になってしまっているというのが現状です。

小松洋吉部会長

なるほどね。いや難しいですね、本当にそういう社会は。

ありがとうございました。大変必要な中身の濃いお話だったと思います。

時間もそろそろですけども、大変今日は盛りだくさん、地域づくりに計画づくりに必要な議論をいただいたと思います。全体として二つに分けて協議をさせてまいりましたけれども、全体を通して何かご感想でもいいですし、ご意見ありましたら。

樋口稔夫委員

ちょっとだけ意見を言わせてください。

小松洋吉部会長

どうぞ。

樋口稔夫委員

分野別計画だとうちの分野でない方に所属しているのですが、資料7の18ページのＩＣ乗車証の導入について、これはＩＣを乗車証だけ使うために導入するというレベルでとらえているわけですか。都市計画やいろんなあらゆる場面で使えるわけですがけれども、この辺どうなんでしょうか。こういう表現でよろしいんでしょうか。乗車券とか乗車証というのは決定的な事項なんでしょうか。

大槻企画調整局次長

今の仙台市交通局で使っております乗車券のＩＣ化につきましては、そういうＩＣ化だけでなく、そのＩＣ化をどうつなげていくか、社会福祉施設の連携ですとか、それから地域の経済活性化への連携ですとか、そういうものをどうやっていくかということ、今全庁的に検討しているところでございます。その中で、ただコストとの折り合いとか使い勝手の折り合いがありまして、そのあたりを総合的にいろいろな資料を集めながら検討を進めているというところで、単にＩＣ化は乗車券だけの問題ではないと認識しております。

樋口稔夫委員

10年間だけの問題、今後だいが進みますので、こういうのは。少し積極的に取り入れてみなさんが便利になるように、生活しやすいようにしていかないと困ると思いますね。

小松洋吉部会長

はい、ありがとうございました。

西澤先生ごめんなさい。そろそろ時間も迫ってきておりますので、ひとつ最後の締め、地域づくりに対する思いやらこの点だけはなど、日ごろ考えていることなどをどうぞ。せっかく遅れながら来てくれたんですから、何か申しわけありませんが。

西澤啓文委員

遅れてまいりました。

地域づくりにかける思いということのお話でございましたので、私も前回の時にもお話させていただきましたが、町内会長とかＰＴＡの全部同時にやりながらやらせていただいている中で、実はそういったこの各いろんな地域づくりにかかわっている団体の間の潤滑油になる方がいないと物事が進まないと。たまたまその立場に自分がいさせていただくことを今までのところはできているということが、実はすごくまちづくりにおい

て、自分の実体験から大事なんだということを思っております。ですからそういった形のつながりがつくれるような働きかけといえますか、そういった方々がそういう場に行きやすいような環境を整えていくことが、1つの柱としてそう進められれば、随分まちづくりというものが市民のみなさんの本当に潜在的な力を生かすこともできるし進むのではないかなと思っております。

すみません。

小松洋吉部会長

先程来、つなぐ機能とつなぐその人というか人材のことは、針生委員からも今みなさんからも話題になっていたところでありまして、まさしく協働のまちづくりの、一つのポイントだろうというふうに思います。

何か突然すみません。

ほか皆さんの方から、よろしゅうございますか。

それでは、今日はたたき台ということで、いろんな幅広いあるいは意義のあるご意見をいただきました。一応協議はこれで終わらせていただきたいと存じます。

(3) その他

小松洋吉部会長

最後に事務局から何かございましたら、どうぞ。最後の資料8のこともあるのではないのですか。

梅内総合計画課長

はい、それでは最初に資料8について、簡単にご説明させていただきます。資料8のカラーの打ち出しの資料でございますけれども、8月28日と9月4日の2週に渡りまして「まち歩きフィールドcafe」というワークショップを開催する予定でございます、現在参加者を募集しております。これにつきましては、市民力という今回の基本計画の大きな課題に取り組むにあたりまして、四つのフィールド、今のところ若林区の「あかね」、福祉関係の団体でございます「あかねグループ」と、卸商センターにできましたクリエイターインキュベーション施設の「TRUNK」と、集客に今取り組んでおります「壺式参横丁」の取組、そしてメディアテークの特にこれは学生、建築関係の学生さんが卒業設計コンクールということで、5千人毎年集めて大きな設計コンクールをやっておりますので、そういった各種の市民参加、市民協働の取組の現場を市民の皆様歩いていただいて、ご意見を聞いて自分たちで今後のあるべき姿について検討して発表していただくということをワークショップでやりたいと思っております、参加者を募集しております。興味のある方、ご近所などにいらっしゃいましたら、是非お声がけをいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

今後の日程でございますけれども、今日は本当にたたき台ということでいろいろご意見をいただきました。とりわけ市民生活がどのように変わっていくかという資料も含めまして、全体的にももう少し分かりやすくという部分でありますとか、全体の流れの悪さ

でありますとか、各セクターをつなぐといった先程もお話ありました拠点といいますか、その人的な人材パワー等といいますか、そういった問題等につきまして庁内でも検討を加えて修正をしていきたいと思っております。8月の下旬に次の部会を開きまして、いったんそこで中間案を取りまとめさせていただいて、次は審議会ですとか市民の皆様へのパブリックコメントという形でご意見をいただいて、またそれをこちらの部会の方にも反映させるといった形でやり取りをしながら、年末にかけて基本計画を固めてまいりたいと考えております。今日十分なお発言をできなかった点ですとか、お帰りになってお気づきになった点等ありましたら、メールや電話等で結構でございますので、事務局へご連絡いただければと思っております。ありがとうございます。

5 閉会

小松洋吉部会長

よろしゅうございますか。そういうことでございます。

それでは、以上をもちまして本日の議事を終了させていただきます。

大変ありがとうございました。長らく大変ご協力ありがとうございました。